第１０回岡山県森林インストラクター会自然観察会実施報告書

第10回　岡山県森林インストラクター会　自然観察会

森林に歴史あり・人に文化あり

～郷土の森林と人との絆～

二上山西峰(向かって左側)、東峰

檜皮葺用に表皮を取ったヒノキが、西上がりの日射しで赤く染まっています。（黒い木はアカガシの古木）・・・二上山東峰（2020.6）

令和２年１０月２５日（日曜日）、第１０回自然観察会が開催されました。

参加者は、一般参加４３名、会員（実行委員・役員含む）１３名でした。

当日は、朝から肌寒かったものの晴天で、体を動かしながら頭の体操もする自然観察会には最適な条件に恵まれました。

１０時開会でお知らせしていましたが、９時半ごろには多くの参加者が集合しており、二上山荘入り口前の駐車場が車で埋め尽くされました。

開会式は、梶原会長の挨拶の後諸注意等を説明し、４班に分かれて準備体操を行った後、出発しました。

今回は、１０時から１５時までと長時間の観察会となったため、各班で説明者を交代するなど工夫をしながら対応しました。ただ前回のように、重点説明のポイントを事前に共有できなかったので、班により若干説明するポイントが違った感はありますが、ベテラン揃いの森林インストラクターが独自色を出しながら対応しました。

開会式

１班から順番に５分ほどの間隔を開けながら両山寺、さらに二上山を目指して進みました。

この地域は、岡山県の中央部で吉備高原の中でも標高が高い地域です。そのため、県南と県北両方の樹種が混生する豊かな植生が見られます。ルートに沿って順次、樹木の特徴などの説明をしながら案内しました。寺社林として守られた、スギやアカガシ、カヤなどの巨木は見学者を圧倒するものがありました。

草本は、参加者に詳しい方がおられたためアドバイスをいただきながら進めました。二上神社から二上山東峰の山頂までの間はこのルート最大の急傾斜、さらに今年はマスクを

しての登山のため、説明者、参加者ともに息切れしないように気を使いながら進みました。

二上山東峰では、岡山県におけるブナの南限地の説明などを行いました。また、見た目が似るシキミとツルシキミについて、科が違うことを葉の匂いで確認してもらいました。また、イロハモミジ、オオモミジの違いは、葉を並べて鋸歯の形を確認し比較。カヤ、イヌガヤの違いは、葉を手に取ってもらい、触った感触で違いを理解してもらいました。

反省点としては、葉っぱなど順番に手渡しで確認する場面もあるため、コロナ対策も兼ね事前に人数分のサンプルを個別の袋に用意するなどの工夫も必要だったと思いました。

昼食をとった後は、二上山を形成する安山岩の話や、山や土壌を守るため人工林の管理が大切なこと、人の手入れの仕方による林内植生の違いなどを現場を見ながら説明しました。また、二上山にはカエデの種類が多いため、特徴的な葉を見せながら解説しました。

平場に降りてからは、パイオニアツリーが動物や昆虫から身を守るためどのような工夫をしているか、トゲで守るイヌザンショウ、アリに守らせるアカメガシワなどの例で説明しました。

１４時４０分、全班無事に出発地点に集合し閉会式を行いました。

最後の方で、「何が飲み物のサービスはないの」との、質問もありましたが、長い時間、頭と体を使いエネルギーを消耗した体には、温かい飲み物のサービスも必要なのかもしれません。昔の話ですが、校内マラソン大会でバテバテで完走した時、ゴール地点で準備してあったコップ一杯の暖かい生姜湯で元気を取り戻せたのを思い出します。

山や森は、同じ場所でも季節により見せる顔が違い、歩くたびに新しい発見があります。

私は時間があれば近くの里山を散策しますが、心がリフレッシュでき、仕事にも集中できます。なによりうれしいのは、運動すると晩酌が美味しいことです。

（まとめ：立石）

後　　援		岡山県、美咲町、 NPO 法人フォレストフォーピープル岡山
実行委員会	委員長	立石智宣
	委　員	安東孝師、大橋日出男、斉藤秀哉、松田友広、宮畑修治、 横林英記、渡邉亜矢子 （五十音順）
	会　長	梶原利廣
	役　員	中島嘉彦、諏訪岳憲、髙橋謙治、黒瀬勝男、栢野奈美恵

“おかやま森づくりサポートセンター”「県民基金」を活用して実施しました。